

女性医師
就業支援
相談窓口からのお知らせ

相談員が聞き歩き

「いばらきで活躍する 女性医師インタビュー」



しばたキッズクリニック 院長
しばた さわこ
柴田佐和子先生

リレー



佐和子先生が院長を務める「しばたキッズクリニック」は、子育て世代が多く暮らす県南の守谷市にあります。クリニックでは診療、予防接種、ニュースレターでの情報発信など地域の子どもや家族の健康を支えています。また、初期研修医のクリニックでの地域医療研修受け入れを行い若手医師の成長を支えています。

趣味は？

ピアノ。遠い昔に習っていたピアノを3、4年前から再開。結構はまっています。



守谷市自慢！

TX 開業以来、何といたっても交通の便がよい。一方で自然や古くからの家屋も多く残り、あくせくしていない感じが好きです。子育て世代が多く、3人・4人兄弟はざらにいます。ワクチンの公費助成は県内トップクラス！



ホームページ <http://www.shibata-kids.com/>



しばたキッズニュース

インタビューの内容は
女性医師就業支援相談窓口ホームページでチェック!!
<http://www.ibaraki.med.or.jp/women/>
フェイスブックもチェック! [fb.me/ibaraki.dr.women](https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/)
<https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/>



茨城県医師会 女性医師就業支援相談窓口

☎ 029-241-7467
☎ 029-241-7468

📠 0120-107-467
✉ i-dr.support@au.wakwak.com

相談員が聞き歩き

女性医師
就業支援
相談窓口

「いばらきで活躍する 女性医師インタビュー」

リレ

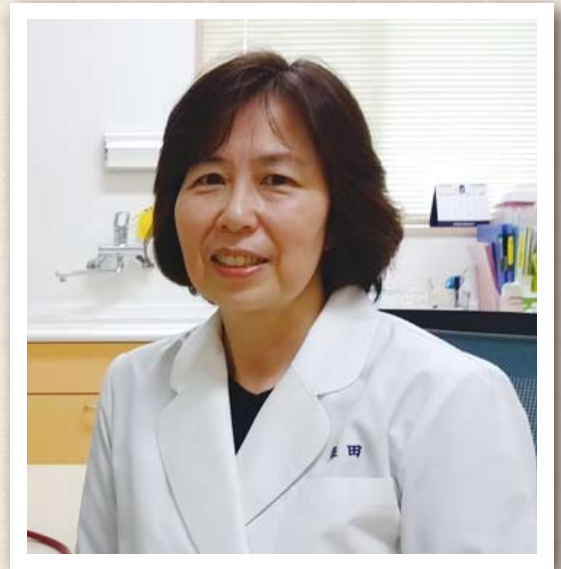


しばたキッズクリニック 院長
しばた さわこ
柴田佐和子先生



両立の心得

医者は長く続けられる仕事。たとえ、一時期仕事を離れざるを得なくなっても、あきらめなければ何とかできます。



しばたキッズクリニック 柴田佐和子院長にお話を伺いました。

柴田先生は、小児科医として県内各地の病院で勤務された後、2007年守谷市に開業。クリニックでは、地域のお子さんやその家族の健康を見守りながら、地域医療を学ぶ若手医師の育成にも力を注がれています。

《略歴》

- 1988年 筑波大学医学専門学群卒業
筑波大学附属病院小児科
レジデントとして大学病院や
県内各地の病院で研修
- 1994年 総合守谷第一病院勤務
その傍ら数年間大学の病理学
教室に研究生として在籍
- 2007年 しばたキッズクリニック開業

医師を志した理由を教えてください

私が高校生の時に、従妹が出産直後に亡くなるという事が起こりました。以来、叔父は私に医師になるよう勧めていましたが、あまりその気になれないまま高校3年になり進路を決められずにいました。ある日突然「自分が白衣を着て診察している姿」というのが頭に浮かび何かひらめいた感じを受け、医学部を受験することにしました。小児科を選択したのも、子供が好きだった事もありますが、やはりひらめきだったような…。

出産前後はどのように過ごしていましたか？

今は子供たちも成長し、大学生と高校生、夫は脳外科の医師です。医師同士の共働きでしたので両立というよりは仕事中心の生活でした。

子供が1歳になる前から当直月3回位、オンコールが月半分以上で当直以外にも夜間に呼び出されることがしばしば。深夜の呼び出しで夫も不在となると寝た子を抱えて出勤し、病院の託児所や病棟のスタッフにみていてもらうこともありました。

また、子供と一緒に8時、9時に寝てしまい、夜中に起きだして学会準備や論文を書いたりもしていました。

勤務中の子どもの世話は保育園や学校にお願いして、時間外や病気時には夫と私の両親、知人、市のファミリーサポートセンター等にサポートしていただきました。

産前産後の数か月だけですが、家で布団を干したり、時間をかけて料理したり、子どもと散歩することが新鮮で産休も満喫しましたが、仕事に復帰したときは「やはり自分はこの仕事が好き」と思いました。勤務医時代は夫婦二人とも休日という時が少なかったもので、そういう日は、家族皆であちこちに出かけていました。今でも休む時は思いっきり休み、働くときはしっかり働くように割り切って過ごすことを心がけています。



待合室



子どもたちを笑顔にするおもちゃや絵本



職員手作りのモニュメントは季節ごとに変わります

開業されたきっかけは？

卒業後20年間を勤務医として過ごしました。

私が勤務した病院は小児科2～3名体制の所が多かったため、月の半分が当直やオンコールになります。周産期を持つ病院では、すぐに駆けつけなければならない突然の呼び出しもしばしばありました。

ずっとこの生活を続けていくのだろうか、という思いがあり自分の年齢や体力と相談しより長く医師の仕事をするために開業を選択しました。

開業されていかがですか？

勤務医時代に比べて診察以外にもやらなければならない事や責任が増えました。日中の忙しさは変わらない中、一人で診療しなければならないので病院時代より忙しい日もありますが、当直や夜間の呼び出しがなくなった点ではやはり楽です。

診療では、今まで以上に患者さんや家族に寄り添ってじっくり耳を傾けることができます。

これまで地域医療に従事してきた経験から、初期研修医の皆さんのクリニックでの地域医療研修を引き受けています。私自身も若手医師から刺激を受けています。

余暇の過ごし方を教えてください。

子供の頃習っていたピアノを3、4年前に再開しました。夜ちょっとした時間に弾くピアノで気分転換しています。

それから運動。ジョイフルアスレチックでのボディバランス。これはヨガ・ピラティス・太極拳などの動きを音楽に合わせて行う癒しのプログラムです。平日は座りっぱなしの生活なので、健康維持には必要です！



若手医師へのメッセージをお願いします

あまり肩肘はらず、その時その時できることを淡々とこなしていけば、道は開けてきます。時には必死で頑張らなければいけない時もありますが、医者は長く続けられる仕事。たとえ、一時期仕事を離れざるを得なくなっても、あきらめなければ何とかあります。

医者になって30年近くになりますが、日々の診療、患者さんやご家族とのふれあいを通じ、この仕事を続けてきてよかったと思うこの頃です。



ホームページ <http://www.shibata-kids.com>

茨城県医師会 女性医師就業支援相談窓口



Facebookもチェック 

[fb.me/ibaraki.dr.women](https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/)

<https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/>

 029-241-7467

 0120-107-467

 029-241-7468

 i-dr.support@au.wakwak.com

 <http://www.ibaraki.med.or.jp/women/>